

I 調査結果の概要

1 平成20年産花きの作付（収穫）面積及び出荷量の動向

作付（収穫）面積は、切り花類で1万6,840ha、鉢ものの類で1,963ha、花壇用苗ものの類で1,640haとなっており、前年産に比べてそれぞれ390ha（2%）、84ha（4%）、45ha（3%）減少したものの、球根類では567haと前年産に比べて3ha（1%）増加した。

出荷量は、切り花類で47億3,400万本、球根類で1億5,720万球、鉢ものの類で2億8,400万鉢、花壇用苗ものの類で7億7,720万本となっており、前年産に比べてそれぞれ9,500万本（2%）、1,050万球（6%）、980万鉢（3%）、1,490万本（2%）減少した。

表1 平20年産花きの類別作付（収穫）面積及び出荷量

類別	作付(収穫)面積	出荷量	前年産対比(%)	
			作付(収穫)面積	出荷量
切り花類	16 840 ha	473 400 万本(球・鉢)	98	98
球根類	567	15 720	101	94
鉢ものの類	1 963	28 400	96	97
花壇用苗ものの類	1 640	77 720	97	98

2 類別・品目別の作付（収穫）面積及び出荷量の動向

(1) 切り花類

作付面積は1万6,840haで、生産者の高齢化や重油価格の高騰に伴う規模縮小等により前年産に比べて390ha（2%）減少した。品目別にみると、ガーベラ、切り葉が増加したが、洋ラン類、切り枝等が減少した。

出荷量は47億3,400万本で、前年産に比べて9,500万本（2%）減少した。

なお、品目別にみた出荷量の構成割合は、きくが38%を占め、次いでカーネーションが8%、ばらが7%となっており、この3品目で全体の約5割を占めている。

図1 切り花類の品目別出荷量割合

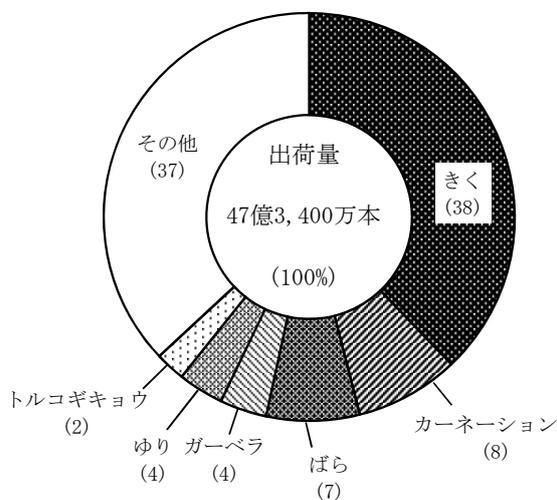


図2 切り花類の作付面積と出荷量の推移

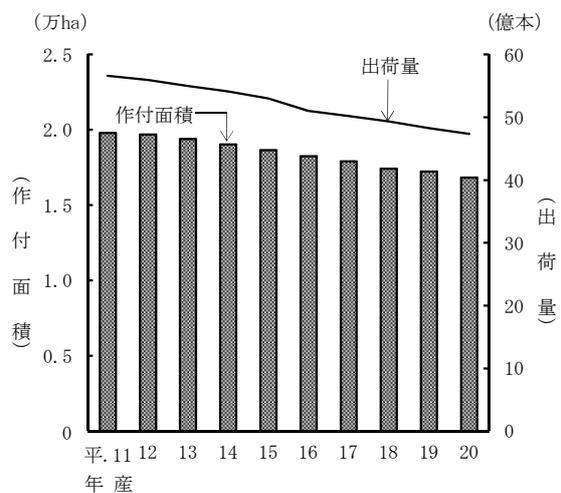


表2 平成20年産切り花類の作付面積及び出荷量

品目	作付面積	出荷量	前年産対比(%)	
			作付面積	出荷量
切り花類	16 840 ha	473 400 万本	98	98
うちき	5 532	179 200	98	99
輪ぎ	3 044	98 530	97	97
スプレイぎ	782	28 410	100	101
小ぎ	1 706	52 270	98	100
カーネーション	412	38 780	100	100
ばら	474	34 740	98	98
宿根かすみそう	267	6 070	98	102
洋ラン類	178	2 200	96	97
スターチス	212	12 000	99	102
ガーベラ	99	17 440	101	97
トルコギキョウ	466	11 140	100	95
ゆり	862	17 080	100	100
アルストロメリア	95	6 790	98	100
切り葉	744	17 010	109	103
切り枝	3 996	24 310	97	97

ア きく

作付面積は5,532haで、沖縄県等で減少したことから、前年産に比べて113ha（2%）減少した。

出荷量は17億9,200万本で、前年産に比べて2,200万本（1%）減少した。これは、作付面積の減少等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が29%を占め、次いで沖縄県が18%、鹿児島県と福岡県が7%となっており、この4県で全国の約6割を占めている。

また、品目別にみた出荷量の構成割合は、輪ぎくが55%で最も高く、次いで小ぎくが29%、スプレイぎくが16%の順となっている。

品目別の作付面積をみると、スプレイぎくはほぼ横ばい、輪ぎく及び小ぎくは減少した。

図3 きくの都道府県別出荷量割合

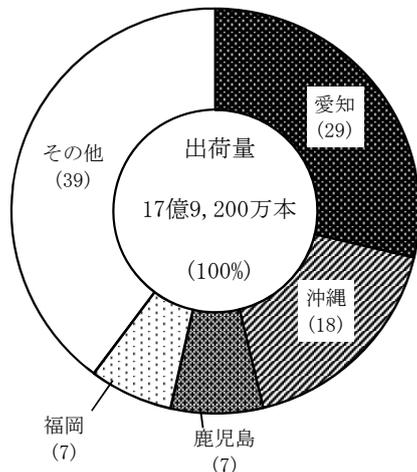


図4 きくの品目別出荷量割合

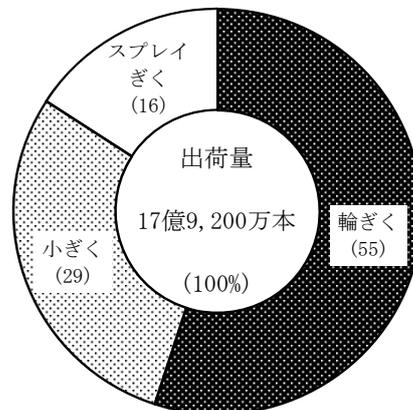


図5 きくの作付面積と出荷量の推移

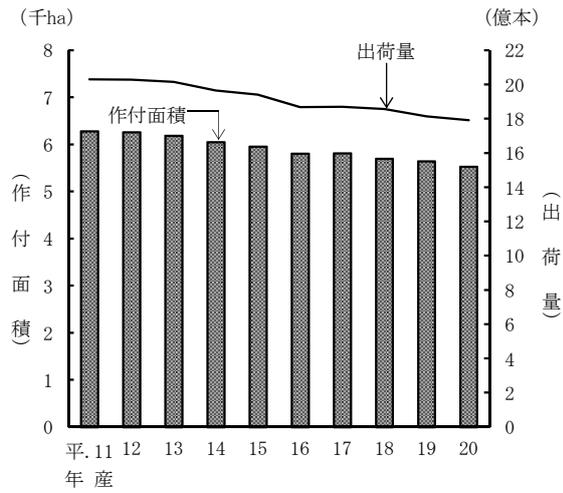


図6 輪ぎくの作付面積と出荷量の推移

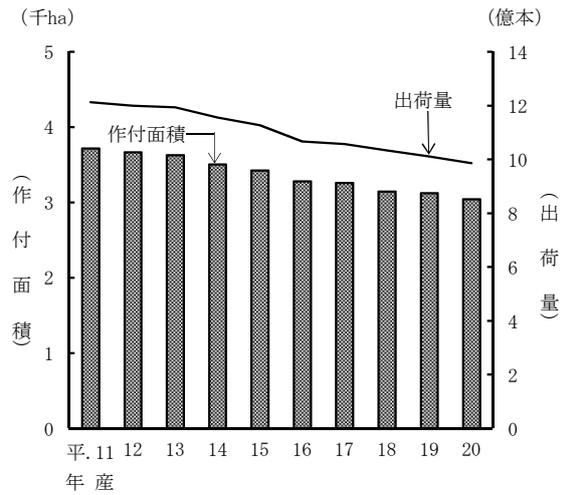


図7 スプレイぎくの作付面積と出荷量の推移

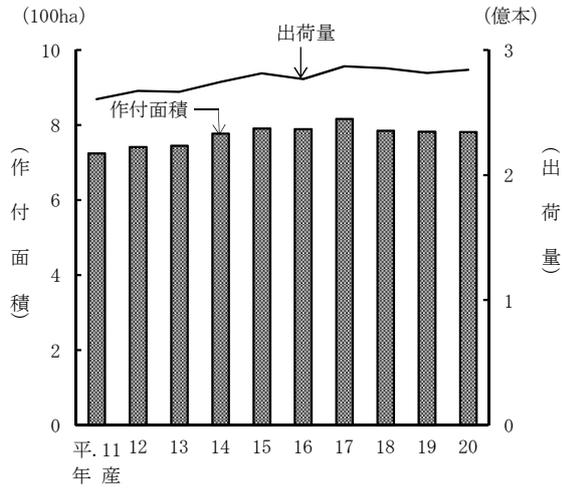
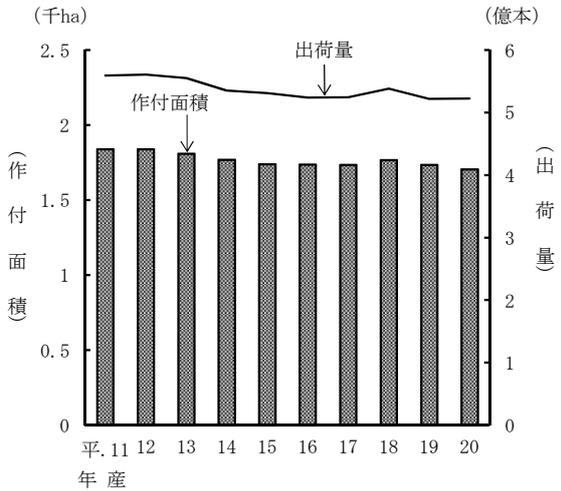


図8 小ぎくの作付面積と出荷量の推移



イ カーネーション

作付面積は412ha、出荷量は3億8,780万本で、それぞれ前年産並みであった。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、長野県が18%を占め、次いで愛知県が17%、兵庫県が11%となっており、この3県で全国の約5割を占めている。

図9 カーネーションの都道府県別出荷量割合

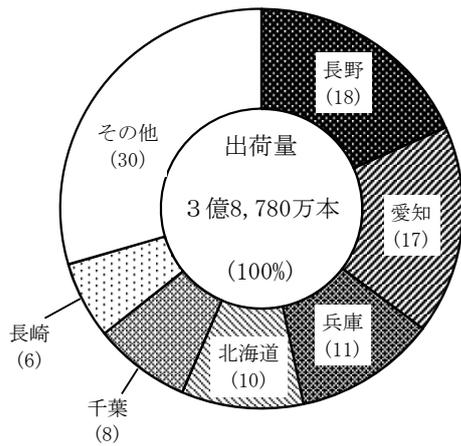
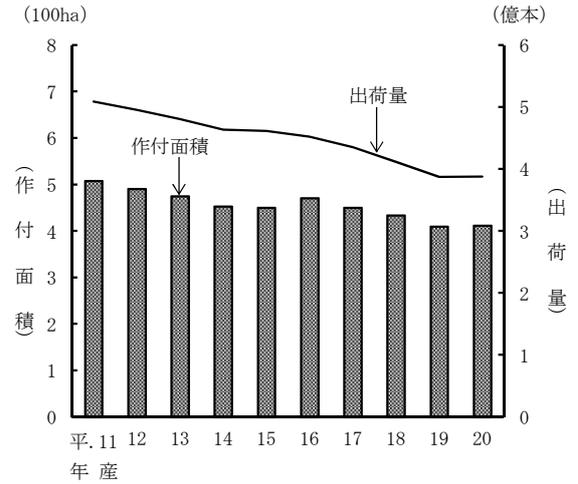


図10 カーネーションの作付面積と出荷量の推移



ウ ば ら

作付面積は474haで、愛媛県、大分県等で減少したことから、前年産に比べて10ha（2%）減少した。

出荷量は3億4,740万本で、前年産に比べて800万本（2%）減少した。これは、作付面積の減少等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が15%を占め、次いで静岡県が9%、福岡県と山形県が6%となっており、この4県で全国の約4割を占めている。

図11 ばらの都道府県別出荷量割合

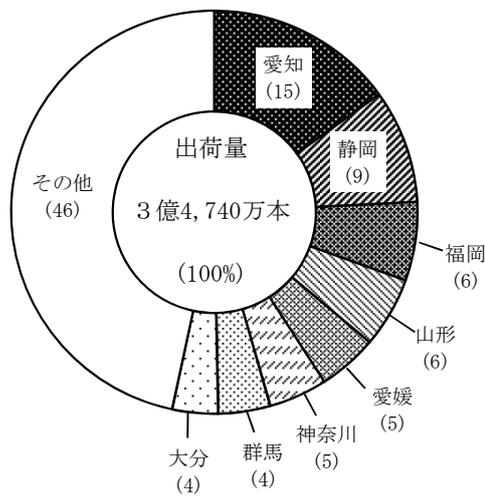
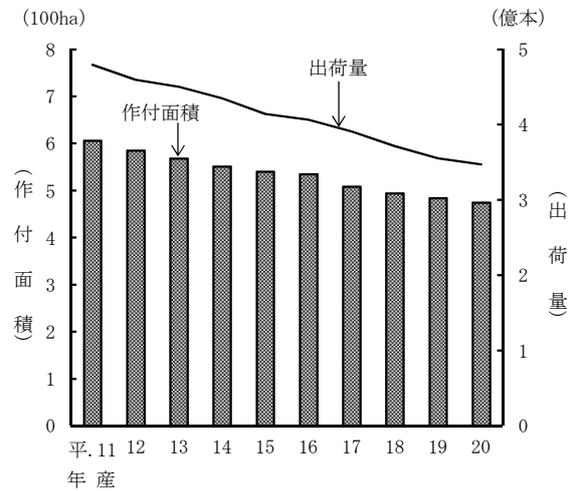


図12 ばらの作付面積と出荷量の推移



エ トルコギキョウ

作付面積は466haで、前年産並みであった。

出荷量は1億1,140万本で、前年産に比べて610万本（5%）減少した。これは、熊本県、大分県等で重油価格の高騰により加温を抑制したことから生育不良があったことなどによる。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、長野県が13%を占め、次いで熊本県と福岡県が9%となっており、この3県で全国の約3割を占めている。

図13 トルコギキョウの都道府県別出荷量割合

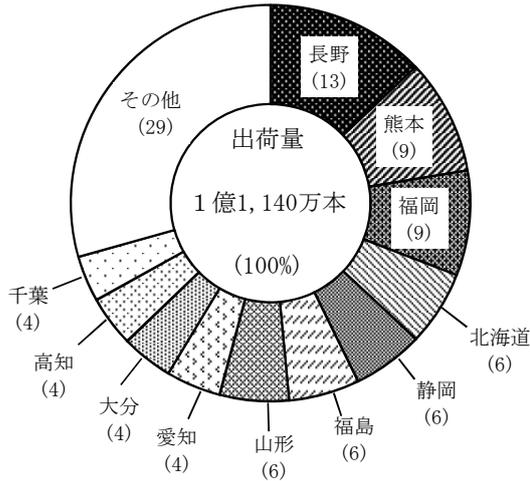
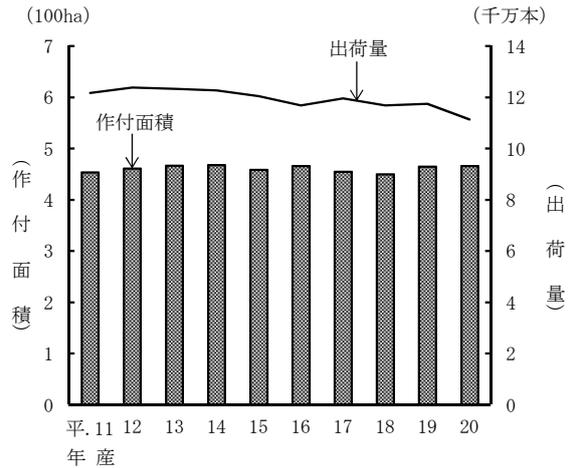


図14 トルコギキョウの作付面積と出荷量の推移



オ ゆり

作付面積は862ha、出荷量は1億7,080万本で、それぞれ前年産並みであった。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、埼玉県が15%を占め、次いで高知県が12%、新潟県が11%、鹿児島県が7%となっており、この4県で全国の約5割を占めている。

図15 ゆりの都道府県別出荷量割合

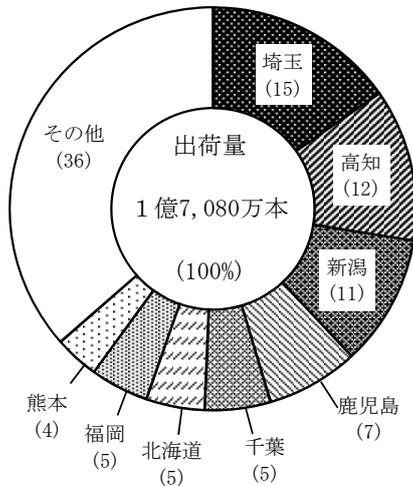
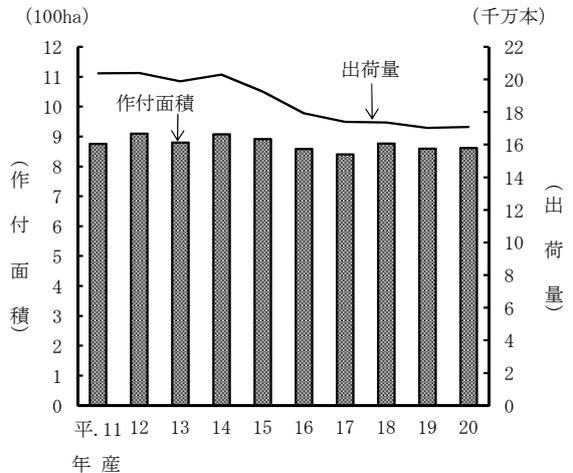


図16 ゆりの作付面積と出荷量の推移



(2) 球根類

収穫面積は567haで、新潟県等で増加したことから前年産に比べて3 ha（1%）増加した。

出荷量は1億5,720万球で、前年産に比べて1,050万球（6%）減少した。これは、茨城県等で湿害や日照不足があったことなどによる。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、鹿児島県が24%を占め、次いで新潟県が20%、富山県が18%となっており、この3県で全国の約6割を占めている。

図17 球根類の都道府県別出荷量割合

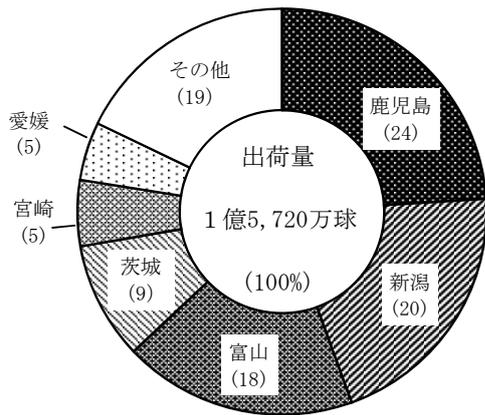
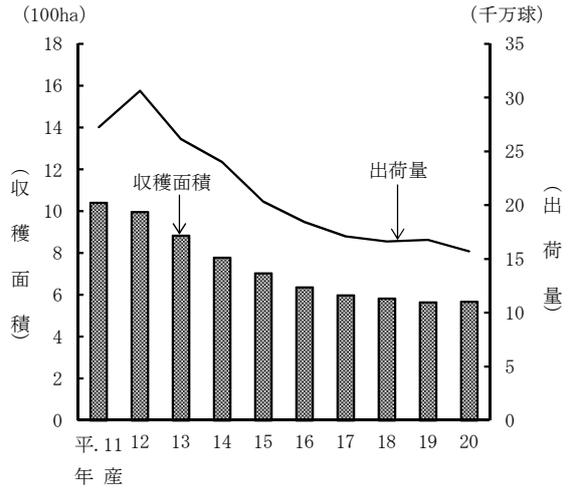


図18 球根類の収穫面積と出荷量の推移



(3) 鉢もの類

収穫面積は1,963haで、前年産に比べて84ha（4%）減少した。品目別に見ると、洋ラン類、観葉植物及びシクラメンが減少した。

出荷量は2億8,400万鉢で、前年産に比べて980万鉢（3%）減少した。

なお、品目別にみた出荷量の構成割合は、花木類が18%を占め、次いで観葉植物が17%、シクラメンが8%、洋ラン類が7%となっており、この4品目で全体の約5割を占めている。

表3 平成20年産鉢もの類の収穫面積及び出荷量

品目	収穫面積	出荷量	前年産対比 (%)	
			収穫面積	出荷量
鉢もの類	1 963 ha	28 400 万鉢	96	97
うちシクラメン	228	2 180	99	99
洋ラン類	251	1 960	95	105
観葉植物	344	4 930	98	91
花木類	437	5 210	100	104

図19 鉢ものの類の品目別出荷量割合

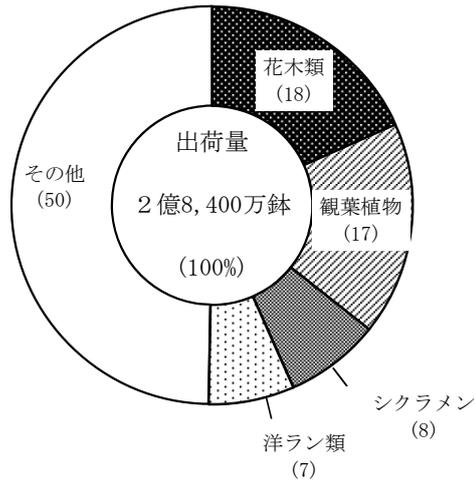
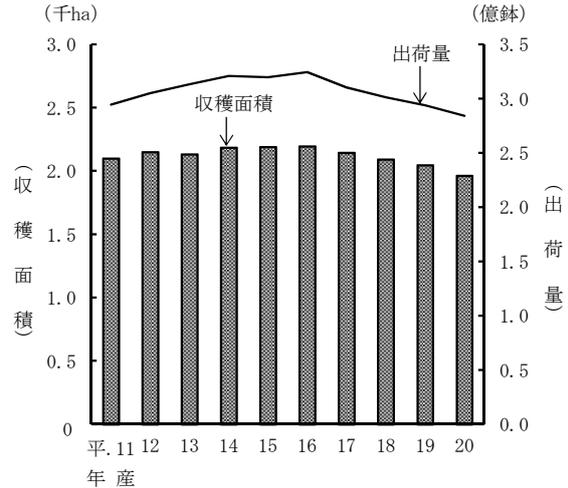


図20 鉢ものの類の収穫面積と出荷量の推移



ア シクラメン

収穫面積は228haで、栃木県等で減少したことから、前年産に比べて2ha（1%）減少した。

出荷量は2,180万鉢で、前年産に比べて30万鉢（1%）減少した。これは、作付面積の減少等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、長野県及び愛知県が12%を占め、次いで栃木県が6%となっており、この3県で全国の約3割を占めている。

図21 シクラメンの都道府県別出荷量割合

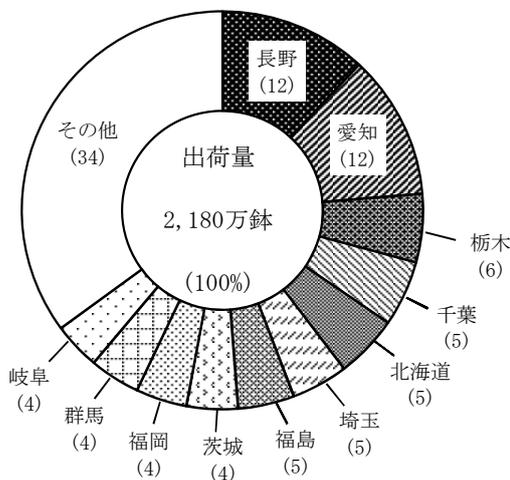
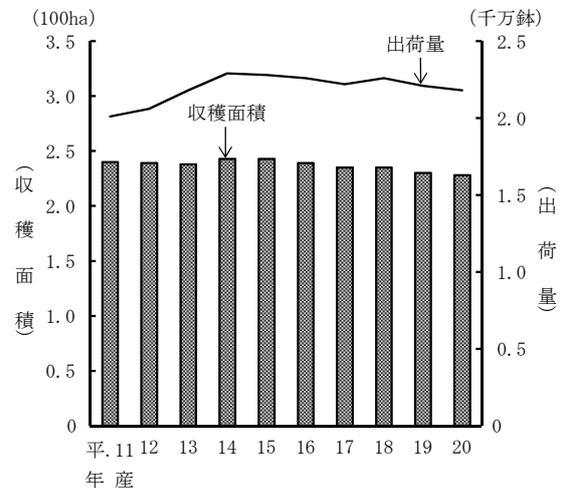


図22 シクラメンの収穫面積と出荷量の推移



イ 洋ラン類

収穫面積は251haで、愛知県等で減少したことから、前年産に比べて14ha（5%）減少した。

出荷量は1,960万鉢で、前年産に比べて90万鉢（5%）増加した。これは収穫面積は減少したものの、小鉢への切り替えがあったこと等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が23%を占め、次いで熊本県が13%、福岡県が11%となっており、この3県で全国の約5割を占めている。

図23 洋ラン類の都道府県別出荷量割合

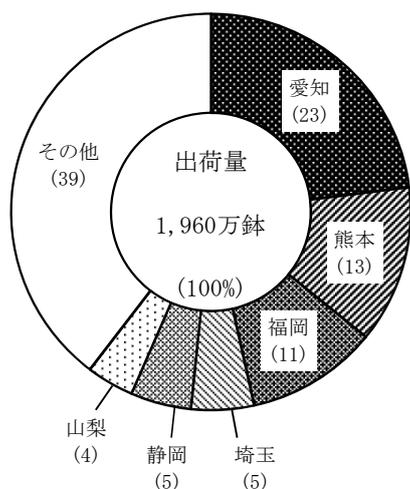
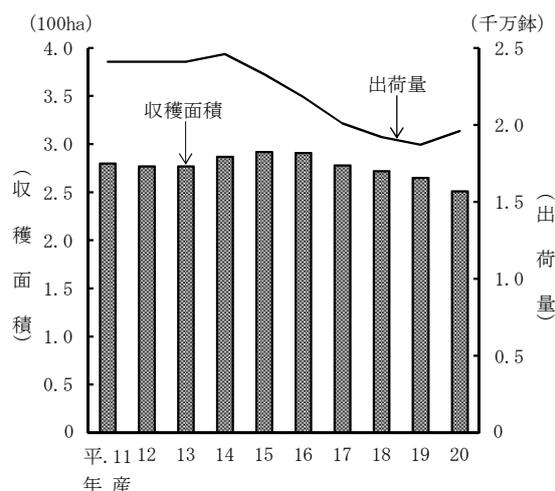


図24 洋ラン類の収穫面積と出荷量の推移



(4) 花壇用苗もの類

作付面積は1,640haで、千葉県等で減少したことから、前年産と比べて45ha（3%）減少した。

出荷量は7億7,720万本で、前年産に比べて1,490万本（2%）減少した。これは、作付面積の減少等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が9%を占め、次いで埼玉県と千葉県が8%となっており、この3県で全体の約3割を占めている。

表4 平成20年産花壇用苗もの類の作付面積及び出荷量

品目	作付面積 ha	出荷量 万本	前年産対比(%)	
			作付面積	出荷量
花壇用苗もの類	1,640	77,720	97	98
うちパングー	333	17,960	102	101

図25 花壇用苗もの類の都道府県別出荷量割合

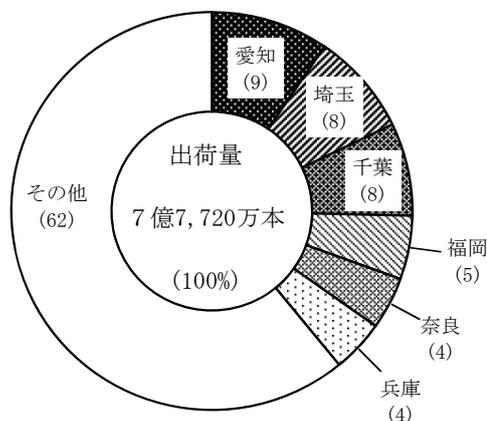
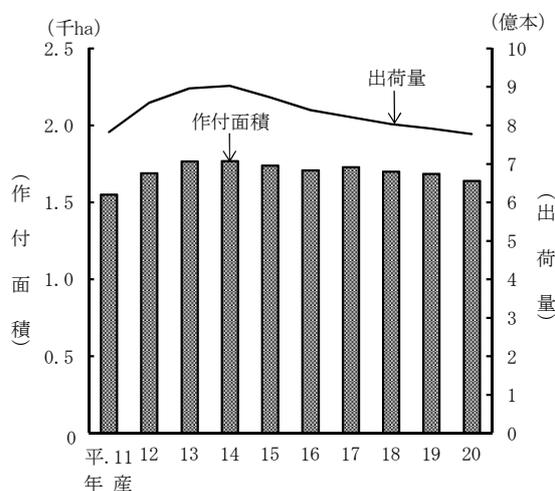


図26 花壇用苗もの類の作付面積と出荷量の推移



ア パンジー

作付面積は333haで、福岡県、鳥取県等で増加したことから、前年産に比べて6ha（2%）増加した。

出荷量は1億7,960万本で、前年産に比べて160万本（1%）増加した。これは作付面積の増加等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が8%を占め、次いで埼玉県が7%、千葉県及び奈良県が6%となっており、この4県で全体の約3割を占めている。

図27 パンジーの都道府県別出荷量割合

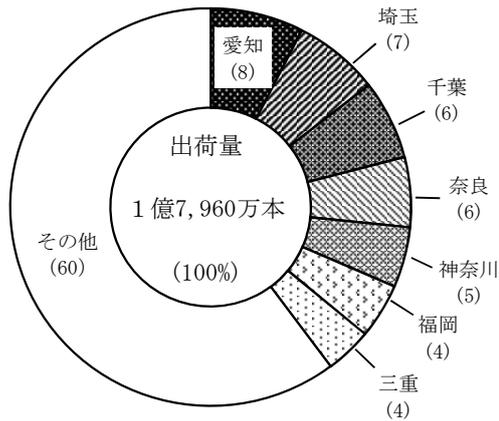


図28 パンジーの作付面積と出荷量の推移

